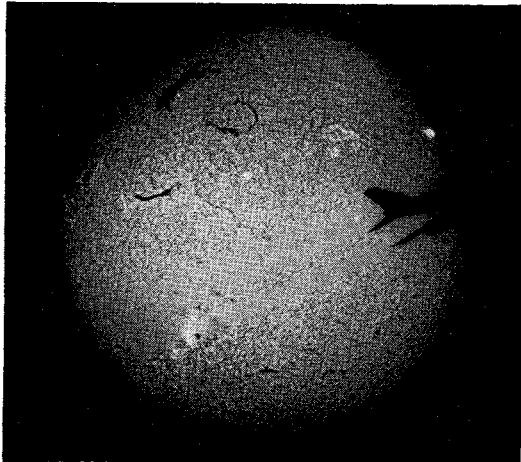


.....  
 雑 報  
 .....

東京天文台のモノクロマティックヘリオグラフでは、1975年より、15秒～60秒間隔で H $\alpha$  単色光による太陽彩層現象の撮影を続けている。

ここに掲載した写真は、1977年12月4日14時29分に撮影されたものである。この観測がはじめて以来、21年目にして、はじめてキャッチされた飛行機が太陽面を通過するという珍しい姿である。4発のエンジンから流れる三条の、排気ガスの航跡が、はっきりと写されている。



この飛行機の高度は 18°, 方位角は南から西へ 42°, 視角は 700" である。機種はボーイング 747 に似ているので、機体の長さを 70m とすると、この飛行機は、東京天文台の南西約 20 km, 相模原上空 7000 m の地点を東から西に飛んだことになる。(宮沢正英)

.....  
 学会だより II  
 .....

### 昭和 54 年度朝日学術奨励金

標記学術奨励金の推薦依頼が本会宛に来ております。応募要領は次の通りです。

1. 本奨励金の贈呈対象は、個人、グループ、団体を問いません。独創的な研究で研究費に恵まれない研究者の応募を期待します。いくつかの学問領域にまたがる、いわゆる「学際研究」も歓迎します。
2. 対象となる研究は、継続中のものでも、これから始めるものでも結構です。また同じ研究に対して継続して贈呈する場合があります。
3. 応募は原則として学界の関係者からの推薦を望みます。別紙「昭和54年度朝日学術奨励金候補推薦応募用紙」により応募して下さい。
4. 奨励金の希望金額には、特に制限はありません。(なお、昨年度の贈呈金額は別紙の通り6研究に対して合計830万円でした。)
5. 朝日新聞社に設けられた選定委員会が、候補研究につき学界各方面の意見をきき、選定します。

応募を希望される方は 2月10日までに学会庶務理事まで御連絡下さい。

.....  
 書 評  
 .....

### 『宇宙からの声が聞こえる』

大日本ジュニア・ノンフィクション

金子 務 著 (大日本図書, 192 ページ)

広い宇宙のなかに地域以外の文明を探るということは、宇宙の進化のひとつの過程として芽ばえた私達にとって大いなるロマンでしょう。宇宙のなかには文明がどのような密度で存在するのか、またそれらは互いに相手を見つめることができるのでしょうか？

この問題は 20 年ほど前から科学の問題として提起されるようになってきました。本書はこの問題に関する啓蒙書です。著者は、地球外知的生物との交信に関する 1971 年ソビエト・ビュラカン国際会議の集録の和訳「異星人との知的交信(河出書房新社)」をしましたが、それが本書のできたゆえんのひとつであるということです。したがって著者はこの問題に対してかなり正統的な立場を前提にしています。また最後まで真面目に読者と知的に対話するという姿勢でいますので、好感をもって読める本であると思います。巷にはうっかりすると狂信的な本が見うけられますがその点は心配はいりません。

小学上級から中学生むきの科学シリーズのなかのひとつとして書かれています。ジュニア層にむかってわかりやすく、しかも内容で妥協しない文章を展開することは著者にとってはかなりの知的重労働を伴うものであったにちがいないと思うのですがこのあたりには敬意を表するものです。プロローグでものべているように、これまでに得られた宇宙についての知識を総動員して宇宙人がいるかどうかという可能性を検討してみることはじめて、探索の方法までふくめてかなりくわしく論じています。

本書を読みおえた読者は宇宙の時空の拡がり地球文明に対して新しい角度からあれこれと考えることになるでしょう。(平林 久)

.....  
 お 知 ら せ  
 .....

### 第 9 回彗星会議

表記の集まりが下記の通り開かれます。

日時: 1979年3月24日(土)～25日(日)

場所: 静岡県引佐郡引佐町奥山

奥山方広寺半僧坊内 奥山青壮年研修所

くわしくは返信用封筒を同封して

〒432 浜松市西山町 2043-4 寺迫正典氏まで